

### 第3回 支援証明書モデル的試行ワーキンググループ

#### 議事要旨

開催日：令和5年12月8日（金）

場 所：八重洲オフィス F15 A-02 + Web 会議（Cisco Webex Meeting）、一般傍聴なし

参加者：WG 委員（敬称略）／浅野、幸福、富田、原口（座長）、松山

#### 【議題】

- (1) マッチングの応募状況・組み合わせ（案）と支援証明書に係る検討方針
- (2) 今後の進め方について

#### 【資料】

- ・ 議事次第
  - ・ 資料1 自然共生サイトの支援証明書モデル的試行 WG 委員名簿
  - ・ 資料2 第3回 WG の主な論点
  - ・ 資料3 マッチングの応募状況、組合せ（案）について
  - ・ 資料4 支援証明書の発行基準、記載内容、運用について
  - ・ 資料5 これまでのご意見と対応方針（案）
  - ・ 資料6 支援証明書・マッチングのモデル的試行の今後の進め方について
  - ・ 参考資料1 マッチング（試行）応募者一覧
  - ・ 参考資料2 自然再興の実現に向けた民間等の活動促進に関する小委員会の検討状況
- ※資料3、参考資料1は個別の企業、団体の情報を含むものであるため、非公開とする。

#### 【WG でいただいた主なご意見等】

##### ■ TNFD 開示における企業の現状

- ・ TNFD 情報開示に伴い、ネガティブインパクトには向き合っていない企業が多い。
- ・ TNFD 開示に支援証明書を使うには、ミティゲーションヒエラルキーとプライオリティロケーションの理解が必要である。
- ・ CSR 活動を TNFD 開示に利用するケースがあるが、多くの場合それは望ましくない。
- ・ 企業活動・企業の自然資本の関係性を説明しうる場合において自然共生サイトを位置づけるのは有効である。

##### ■ 支援証明書における証明内容について

- ・ 支援事実を確認するためのモニタリングの仕組みが重要となる。支援証明書の有効期間と関連付けて検討する必要がある。
- ・ 支援事実とサイトの価値の維持向上に役立つことの確認とあわせ、支援予定の変更等

も事務局が確認するとのことだが、10 万円の手数料では運用が厳しいと考える。

#### ■ 金銭支援によるグリーンウォッシュについて

- ・ ステークホルダーにとって、金銭による支援は内容によっては、生物多様性オフセットの文脈で捉えられ、グリーンウォッシュとして捉えられかねないので留意が必要。
- ・ 支援者自身が手をかけコミットする場合、グリーンウォッシュと捉えるリスクは少ない。制度運用時の抜け道がないよう、有効期間等も含めて、支援証明書の使途については引き続き要検討。

#### ■ 貢献内容のロジックモデルに基づく記載について

- ・ 自然共生サイトへの支援を実施した際に、GBF ターゲットのどこに繋がるかを支援証明書で示すことで、ESG に読み替えて投資家は評価可能となる。
- ・ TNFD のインパクトパスウェイのチャートに基づき、GBF の該当項目に繋げるロジックモデルが必要である。ロジックモデルを支援証明書の本紙に記載する事項とすることは画期的である。
- ・ サービス販売（請負契約含む）等のケースはインプットがないということになり、ロジックモデルが成立しないのではないかな。
- ・ 投資家の制度に対する理解も必要である。

#### ■ 支援証明書発行の基準について

- ・ 申請支援等のコンサルティングサービスは支援証明書発行の対象外とすることが望ましい。今回の試行を通して事例や課題を整理し、ガイドラインで示すと良い。
- ・ 投資・融資、寄付、購入は支援証明書発行の対象となり得るが、販売については、請負契約かどうかにより、発行対象となるか否かが分かれるのではないかな。